

## 4 農山漁村振興 -元気で豊かな農山漁村づくり-

## (1)農山漁村の賑わい創出と地域コミュニティ機能の維持

## プロジェクト あおもり型農村RMOの実現

## 目 標

- ・あおもり型農村RMO数 R4：0組織 → R10：12組織
- ・農林漁家民宿延べ宿泊者数 R4：7,732人泊 → R10：10,800人泊

## 挑戦する内容

- ・スタートアップ支援による稼ぐ力のある地域経営体の育成
- ・地域経営体を中心とするあおもり型農村RMOの形成
- ・農泊を切り口とした関係人口の創出

関係者の声  
=対話

- ・農山漁村の維持に向けた取組は必要だと思うが、役場のマンパワー不足と地域の担い手（人材）不足により、なかなか動き出せない（市町村）
- ・地域貢献的な取組を行うには、自身の経営を安定させることが必要（地域経営体）
- ・農泊実践者の高齢化。現状のままでは農泊受入人数の大幅な拡大は難しい（農泊受入団体）

## 役割分担

- ・地域経営体：地域との連携、雇用と収益の創出など地域の経済活動、農用地保全等
- ・農泊実践者：実践者同士の連携、交流人口の拡大・関係人口の創出を目指した取組の実施
- ・農泊受入団体：多様な受入方法の確立、受入態勢の強化
- ・市町村：地域の強みや課題を地域住民と共有し、強みを伸ばし、課題解決策の実践町内会や社会福祉協議会など農業以外の分野との連携の仲立ち
- ・県：学識経験者などを交えた伴走支援

## 変革後の姿

- ・地域住民自らが話し合うむらづくり協議会が設置され、農山漁村の維持に向けた取組が活発化
- ・農泊の取組拡大により、関係人口が創出され、地域経済が活性化

## 令和6年度計画

## 挑戦する内容

- 1 スタートアップ支援による稼ぐ力のある地域経営体の育成
  - ・市町村のマネジメント活動による課題解決に向けた取組を支援
  - ・農村RMO形成につながる地域経営体の育成や新しい取組への支援
  - ・農村RMOの周知に向けた研修会の開催
- 2 地域経営体を中心とするあおもり型農村RMOの育成
  - ・モデル集落の選定と集落内の地域経営体やむらづくり協議会等への支援
  - ・中間支援組織や有識者を活用した総合サポート
  - ・集落営農組織のレベルアップへの取組支援
- 3 農泊を切り口とした関係人口の創出
  - ・多様な受入手法等の習得、先進地調査
  - ・意欲ある実践者の取組支援
  - ・農泊の認知度向上に向けた国内外のプロモーションの実施
  - ・農泊の受入態勢の強化



買物困難者のための移動販売



あおもりグリーン・ツーリズムガイド

## 対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・事業ヒアリングで市町村や地域経営体等の意向を把握（5月）
- ・市町村マネジメント部会やモデル集落の座談会等への参加による集落内の関係者、集落営農組織間の定期的な情報交換の上、課題を抽出し、取組へ反映（6～2月）
- ・学識経験者（弘前大学）を交えた伴走支援関係者による合同ミーティング等により事業の進捗状況を把握、学識経験者の助言を取組に活用（年3回）
- ・農村RMOや集落営農組織に関するセミナーなどで農村RMOについての意見集約（6月、2月）
- ・関係人口創出や農泊受入態勢強化に向けた研修会に参加した農泊実践者や農泊受入団体の意見集約（7月、12月）